

〔翻 訳〕

法とは何か¹⁾

G. W. F. Hegel 筆記
尼寺 義弘 [訳]

はじめに

本稿は、一葉の G. W. F. ヘーゲルの手書きの原稿です。四分の一ボーゲン分に当たります。この原稿の来歴について詳しいことはよくわかっていません²⁾。

しかし、すでに1955年に公刊されたFelix Meiner 社の G. W. F. Hegel, “Grundlinien der Philosophie des Rechts” の第四版の S. 431-432. には、この一葉の原稿はすでに解説され翻刻されています³⁾。

また、内容からみて、ヘーゲル最後の「法の哲学」の講義であるシュトラウス手稿との比較・分析も可能です⁴⁾。

本稿の原文の蔵書の所在は、つぎのとおりです。

MS Ger 51 Box 1: 1-4, Houghton Library, Harvard University.

Cambridge, MA 02138 USA

なお、原文の下線は、そのまま訳文において踏襲しました。

〔本文〕

法とは何か

α.) 法とは何か — それは、— 法律を — 知ることです

β.) 法律は古いです、— わずかの人間の名称が不朽です、彼らはその国民の立法者であることによっ

て
— 彼らは存在します、そして誰も、彼らがどこから来たのか、を知りません — 神的な権威 強靱な —

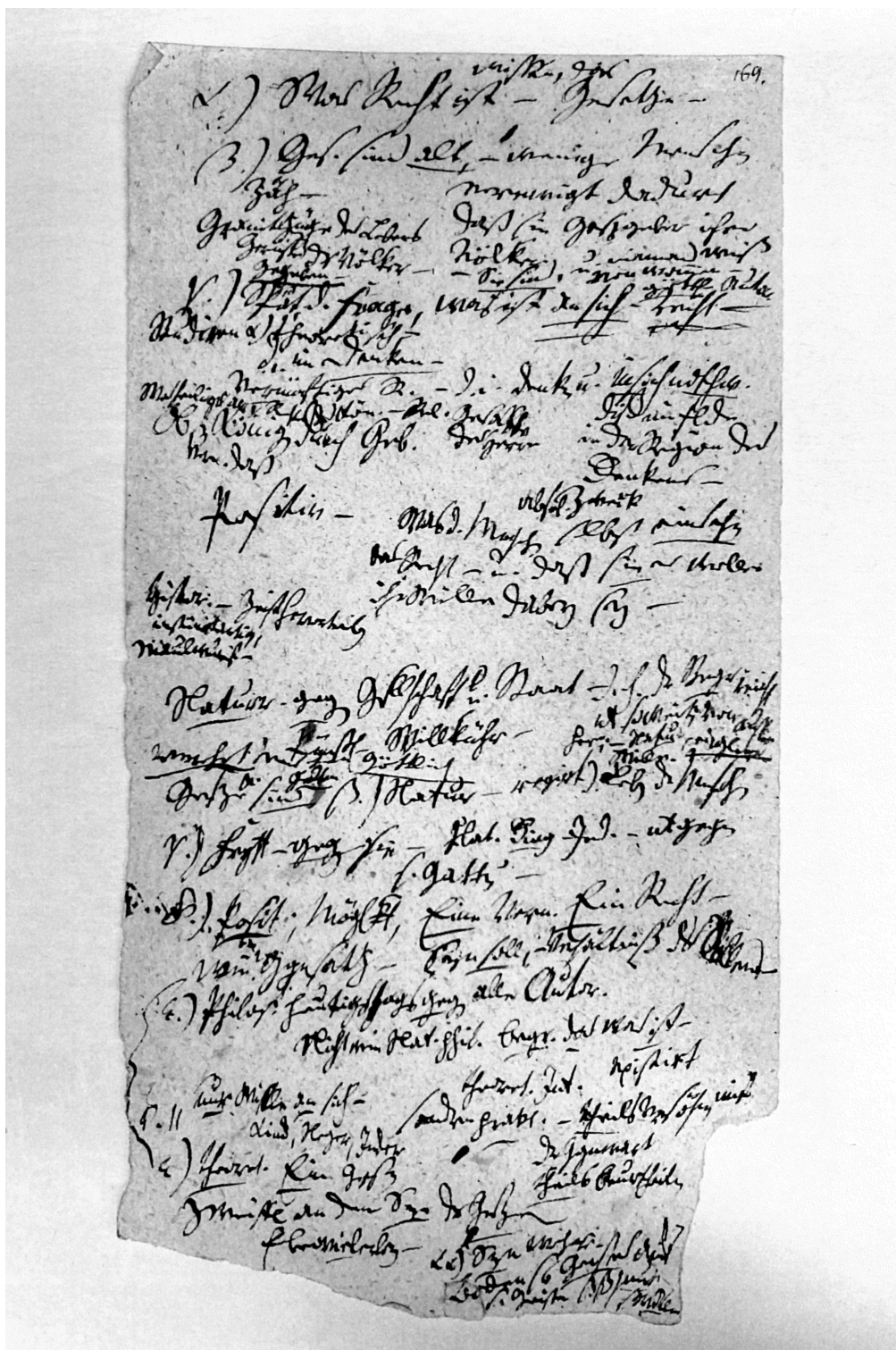
国民の生活の 花こう岩のような 骨組み — 所与のもの

γ.) 遅い、問い、即自とは何ですか — 正しい —

研究すること α) 理論的に — すなはち思考において —

理性の法 — すなはち思考し、そして自己において必然的な — このことは思考の領域における広場において — 絶対的な目的

王の法よりも聖なるもの — 宗教 主より塗油されしもの



出所) ハーバード大学 ホートン図書館 所蔵

Mar. 2024

法とは何か

生まれによって決められる王に、それは理性的であるか、どうか、

実定的な — 人間自身が法を分別するところのもの — そして人間が法を意志します — 人間の意志がそこには存在します —

歴史的な — 精神が内から外へと出現させます — 本能的な仕方、モグラ —

社会と国家に対抗する自然法 — すなはち概念はそれほど広くいきわたってはいません；外部からみて；自然、個別の意志。

彼らにとって神的なものを崇拝します — 君主的な恣意 —

法律は α . 妥当するものです β .) 自然は — 人間の生活を統治します

γ .) 自由 — 自由に対抗して — プラトン 事物 — 個人 — 個人はその類に対抗しません —

δ .) 実定的なもの、可能性、一つの理性 一つの法 — 如何にしてか？ 対立 — 存在するべきです、
— 当為の関係 —

ϵ .) 哲学は当今あらゆる権威に対抗します

自然哲学のように、それは何であるか、という把握の仕方ではありません — 現存在しています —
理論的な関心 — そうではなくて実践的な関心です — 一部は現代との和解です、一部は評価することです —

§. 11 ただ意志の即自のみ — 子供、黒人、インド人

ϵ .) 理論的な一つの法則

諸法則の存在への疑問

まさに様々なことに —

α a) 彼の精神からの彼の精神の真の土台の存在

β β) ただ彼の意志のみ

訳者注

- 1) このタイトル「法とは何か」は、原文の最初の、文言 α .) Was Recht ist-wissen, das - Gesetze - に由来します。
- 2) この原稿の特徴については、下記の文献を参照ください。
Helmut Schneider, Unveröffentlichte Vorlesungsmanuskripte Hegels, In: Hegel-Studien. 7 (1972), 23.
G. W. F. Hegel, Gesammelte Werke Bd. 14, 2. Hrsg. v. K. Grotzsch u. E. Weisser-Lohmann, S. 287f., F. Meiner, 2010.
同じく, Bd. 14, 3. S. 863f., F. Meiner, 2011.
- 3) G. W. F. Hegel, „Grundlinien der Philosophie des Rechts“, Vierte Auflage, 1955. S. 431f. のタイトルは „*Ein einzelnes Blatt zur Rechtsphilosophie*“ (Harvard-Univ.-Bibl., USA.) となっています。

- 4) 内容の検討にあたり, ヘーゲル 最後の「法の哲学」の講義であるシュトラウス手稿との比較・分析も可能です。下記の拙訳を参照ください。

尼寺義弘 訳「ヘーゲル 最後の『法の哲学』講義 (1831) — シュトラウス手稿 —」, 『阪南論集』, 人文・自然科学編, 第55巻第2号, 2020年。所収。

(2023年11月30日掲載決定)